

平成20年度  
受賞

うら たず こ  
浦 多津子

～ 家庭での食育の必要性を伝えたい ～

【受賞者の概要】

浦 多津子

- ・食生活改善推進員
- ・佐世保市在住



【受賞時の活動・現在の活動】

食生活改善推進員としてエコクッキングをはじめ、様々な食育活動を行っています。佐世保市の各種委員会をはじめ、長崎県食生活改善推進連絡協議会理事として食育の施策策定に関与。

「食育アンケート」を実施し、佐世保市の食育推進会議で報告するなどの食育活動を実施。

現在は、各種委員の役職は降りましたが、一会員として、地域での食育活動を継続中です。



【これまでの食育活動を通して思うこと】

教育現場や公民館等で、児童、保護者、一般の参加者に対し食育活動を行う中で、家庭での食育の必要性、重要性の理解が深まり、食品の安全性や環境問題の関心も深まりました。

【今後の展望(これからの夢)】

今後も、食育関係機関と連携し、「食」に関する感謝の気持ちと理解を深め、健康な心と体を育み、豊かな社会の実現を目標に活動を行ってまいります。



たかき たつお  
**高木 龍男**

～ 長崎の伝統菓子「かんころ餅」を通じた食文化の伝承 ～

【受賞者の概要】

**高木 龍男**

- ・菓子製造販売業
- ・佐世保市在住



【受賞時の活動・現在の活動】

地域小学生をはじめとする児童生徒を製菓工場に受け入れ、長崎県伝統の自然食品「かんころ餅」づくり体験を通じた食育活動を行っています。受賞時の受入児童数は約2000名。また、県内の小・中・高校へ出向き、ゲストティーチャーとして、長崎の風土と食文化、伝統食を伝えています。

学校では生徒自ら製造に係わり、独自の食品をブランド化。児童を通して、生産者、農業団体、行政、学校、加工業者と連携する食教育の取組が、平成20年度食育推進活動表彰を受賞。

さらに、8年前より毎月1回敷地内で「野菜びいき市場」という農業・加工食品の担い手を集め、地域の親子を対象に、生産者との交流市場、食育活動も行っています。



【これまでの食育活動を通して思うこと】

ブームとしての食育が収まり、小学校ではITや英語教育へと移り、体験申し込みは激減。職業体験として、中・高生への作業を通じての伝統食文化の考え方を伝えています。食生活の現状は従来の家庭を基本とした伝承や、地域性が失われていく方向になりました。月1回の野菜びいき活動の中でのかんころ餅つきや、生産者自らセミナーを続けて親子に体験させる企画を続ける必要があると思います。

【今後の展望(これからの夢)】

食を支える「団らん」の必要性は不変です。健康と環境への関心を高める活動は、事業者が積極的に行うべきことだと考えています。「より良く食べる」とは何かを体験できる「場作り」を今年より始める予定です。

作り続ける生産者の取り組みを更に伝えるための方法を深めていきたいです。

平成29年度  
受賞

かみはし としこ  
上橋 俊子

～ 子どもたちが「食を営む力」を育むために ～

【受賞者の概要】

上橋 俊子

- ・栄養士
- ・食育活動歴：29年
- ・佐世保市在住



【受賞時の活動・現在の活動】

「食を営む力」を育むことを目的に、保育園生活において郷土料理や季節の食材を取り入れた給食の提供や、味噌・梅干等の伝統食品作り、行事食など、四季折々の楽しい食育体験の場の提供を通して、子ども達の心身の成長に長年にわたって大きく貢献。

また、保護者や地域の方を対象とした離乳食講座や給食試食会・親子クッキングの実施や、市の「食育祭」での食育実践報告、現場に役立つ給食レシピ集の作成など、家庭や地域と連携した食育活動を推進しています。



【これまでの食育活動を通して思うこと】

「食」は空腹を満たすだけのものではなく、「食」を通しておいしさ、楽しさ、安らぎ、だんらん、ふれあい、分かち合い、思いやり、感謝など人と人の心の栄養(愛)をも得ることだということを、子ども達や保護者、地域の方々との触れ合いの中で学ぶことができました。

【今後の展望(これからの夢)】

子どもにとってうれしい、楽しい体験は、豊かな心も育て、やがて、豊かな人生の原点になると思います。これからも、子どもを主体におき、自主性を育むよう、優しく見守りながら、保護者、地域の方と連携し、積極的に取り組んでいきます。